

地域課題の解決に向けた取組

～低コスト造林の実践に向けて～

上川北部森林管理署



一貫作業システムによる地拵作業
(グラップルレーキ)

はじめに

近年、主伐期を迎える人工林が増加する中、この資源を伐採・利用することにより、林業を成長産業化させるとともに、伐採後の再造林を確保し、資源の循環を確実なものにしていくことが重要となっています。

一方、主伐後の再造林の費用、特に植栽や保育といった初期段階のコストが高く、加えて、林業従事者の高齢化や担い手不足が進んでおり、再造林を進めるうえで、造林の省力化と低コスト化が、地域の民有林・国有林の共通の課題となっています。

このため、当署では、伐採・搬出と同時に地拵・植栽までを行う「伐採・造林一貫作業システム」により森林整備を行った作業地などを活用し、低コスト造林の実践に向けて、次に紹介する項目などを重点的に取り組んでいます。

① コンテナ苗の検証

これまでのところ、全体を通してコンテナ苗は裸苗より優勢の結果が出ており、今後の生育環境・生長過程等に変化があった場合にどこまで差がでるのかなどについて、引き続き検証を行う考えです。



アカエゾマツのコンテナ苗の生育調査

② 天然更新の促進

造林の低コスト化には、天然更新も有効な手法の一つです。天然更新が可能であれば、苗木などの植栽コストの削減に繋がること が期待されますが、トドマツの天然更新には、光のコントロールが重要であるとされています。



トドマツの天然更新状況を観察するためのプロットの設定状況

おわりに

今後も継続してデータの収集と検証を行い、造林の低コスト化に繋がる有益な技術情報を地域に発信したいと考えています。

今年度から、当署では伐採帯の中で日陰となりやすい箇所と陽当たりの良い箇所とで比較対照プロットを設定し、トドマツ天然稚幼樹の発生状況と照度との関係についての調査を行いました。現時点で、設定したプロット間における天然稚幼樹の発生状況に大きな相違はありませんが、引き続き天然更新の状況について経過観察していくこととしております。